

低温性輪ギク「神馬」の11～12月出し栽培法

福島県農業試験場 いわき支場
平成13～15年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 05-08-18000000

部門名 花き－キク－作型・栽培型
担当者 矢吹隆夫・諏訪理恵子

I 新技術の解説

1 要旨

本県の輪ギク生産は、夏秋期の7～10月に出荷が集中しており、それ以外の時期の出荷は少ない。このことから、出荷期の拡大を図るため、低温性品種を利用した輪ギクの電照11～12月出し栽培法を確立した。

- (1) 輪ギクの11～12月出し栽培には「神馬」が適している(表1)。
- (2) 「神馬」の無加温栽培では、電照終了から切り花盛期までの到花日数が短く、生育が揃うため切り花率が約90%と高い(表1)。
- (3) 「神馬」の加温栽培では、到花日数が60日程度であり、電照終了時期から出荷時期の予定がたてやすい(表2)。
- (4) 「神馬」は、再電照を4日以上行うことにより上位葉が揃い、切り花品質が向上する(図1)。

2 期待される効果

- (1) 品種の生育特性および電照方法が明らかになったことで、輪ギクの11～12月出荷が可能となる。
- (2) 夏秋出し作型と組み合わせることにより、輪ギクの出荷期間を拡大することができる。

3 適用範囲

施設が導入されており、夏秋出し作型と組み合わせが可能な地域。

4 普及上の留意点

最低夜温を10℃程度に保つよう温度管理を行う。

II 具体的データ等

作 型	7月	8月	9月	10月	11月	12月
11~12 月出し作型	☆ ▽	----- —— ◎ — × #	再電照 ★ ☆-★ ↑			↓ <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px;"></div>
度	電照終了から切り花まで60日程					

なし